



年 組 名前

道新でワークシート

ゾウの体調管理 柵越しに

円山動物園 米専門家が指導

世界的なゾウ飼育の専門家アラン・ルークロフトさん(75)＝米カリフォルニア州＝が来日し、札幌市円山動物園で柵越しに体調管理を行う「準間接飼育」を指導している。ゾウのストレス軽減や飼育員の安全確保につながる手法で、ルークロフトさんが同園を訪れ飼育員に助言するのは6回目。今回は飼育中のゾウが妊娠している可能性が高いとみて、出産時の対応も伝えている。(長峯亮)

「パール」妊娠の可能性

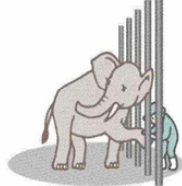
7人に連日5〜6時間、足や耳を出す指示の出し方などを美演を交えて指導している。4頭のうち雄のシーシュ(14)と雌のパール(18)は繁殖を目指して同居中のため、出産時の対応についても講義。職員たちはゾウが出産する映像を視聴した

り、出産前後の期間に必要な人員数などの体制について教わったりした。パールは週2回、妊娠の可能性を調べるため、ホルモン量を計測する血液検査を行っている。ルークロフトさんは23日、取材に対し、「今後数カ月の検査結果を精査する必要があるが、ホルモンレベルは高く、妊娠している確率は95%」との見方を示した。繁殖に成功すれば同園初となる。飼育展示課の坪松耕太係長は「パールが出産することも想定し、しっかり準備していきたい」と話している。

準間接飼育はゾウが飼育員の指示に従って足や耳を柵の外に出す訓練をした上で、柵越しに健康管理のための採血、爪切り、治療などを行う。ルークロフトさんは欧米で普及しつつあるこの飼育法の第一人者で、約1カ月かけて円山動物園、多摩動物園(東京)、上野動物園(同)、天王寺動物園(大阪)でそれぞれ研修を行うため、来日した。札幌には16〜24日に滞在。円山動物園には現在ゾウが4頭おり、担当飼育員

準間接飼育とそれ以外の飼育法の違い(ゾウの例)

準間接飼育



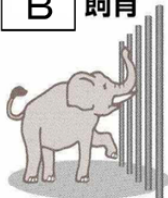
準間接飼育専用の柵越しに採血や体洗いなどのケアを行う。同じエリアに入らないので、安全に飼育管理できる

A 飼育



ゾウと同じエリアに入り飼育。家畜としてゾウを飼い慣らしてきた方法で、チェーンでつなぎ管理する場合もある。事故の可能性が高い

B 飼育



別のエリアから、一切触れずに飼育管理する。一般的にライオンやトラなどの猛獣を扱う飼育方法

2022年8月24日(水) 朝刊 札幌市内版 16ページ(記事は再編集しています)

① 線「体調管理を行う」とありますが、具体的に行うことを本文中から書き抜きなさい。

② A と B に入る対義語をそれぞれ漢字2字で書きなさい。

A :

B :